

平成 21年 6月 15日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2006 ～ 2008  
 課題番号：18710217  
 研究課題名（和文）  
 イタリア製造業センサスにもとづく産業地域データベース構築と地域間比較研究  
 研究課題名（英文）  
 Comparative regional studies and construction of database on census in Italy  
 研究代表者  
 遠山 恭司（TOYAMA KYOJI）  
 東京都立産業技術高等専門学校・ものづくり工学科・准教授  
 研究者番号：20270233

研究成果の概要：イタリア製造業センサス・データを利用して、イタリア製造業の地域・業種別、すなわち産業地域（Industrial Districts）別の時系列産業特性の抽出を行い、日・英・伊3カ国語で各編集データを公表した。これまで特定地域（トスカーナ州、エミリア・ロマーニャ州）に偏りがちなイタリア産業地域研究と異なり、家具や眼鏡の産地、自動車設計業など、十分に調査されたことのないイタリア国内の地域間比較、対日比較を行った。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	300,000	3,600,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：イタリア、製造業センサス、データベース、産業地域、地域間比較

## 1. 研究開始当初の背景

これまでのイタリア地域産業研究は、調査に基づいた事実発見と伝統的なイタリア経済発展論に依拠したものが多かった。これらは特定の地域を特定の時期に調べ上げたものと、従来の学説を踏襲するスタイルがとられている。

こうした研究方法に加えて、イタリア中央統計局による製造業センサスを用いて客観的な産業動向に基づいて、中長期の傾向を把握し、かつ、伝統的な地域区分や発展地域以

外にも視野を広げられる研究の必要性も考慮に値すると思われた。幸い、これまでの調査研究の経験から、イタリア中央統計局ミラノ情報センターに何度か足を運び、資料にあたるのと同時にウェブ上でのデータ入手の手法について手ほどきを受けていた。そこで、それらのデータを産業別、地域別に整理してデータベースを構築して公表すれば、今後のわが国におけるイタリア地域産業研究の基盤的資料を共有することができ、また、先行研究の現代的状況を追跡可能な上、調査地域を客観的な裏づけにもとづいて選定できる

ようになるはずである。

また、イタリア産業地域クラブという、商工会議所を中心に、産地振興団体を形成しているが、これには十分な地理的な裏づけや統計資料に欠くことも多かった。ゆえに、産地のある程度の場所は判明するが、その中心地と周辺、あるいは地域的な集積度を把握することは困難であった。これについても、本研究の成果を用いることで、かなり実態を補足できることになるはずである。

## 2. 研究の目的

本研究は2つの大きな柱から構成される。第1に、イタリア製造業センサス・データを利用して、イタリア製造業の地域・業種別、すなわち産業地域 (Industrial Districts) 別の時系列産業特性の抽出を行い、日・英・伊3カ国語で各編集データを公表することである。第2に、それにより得られたデータに基づいて日本とイタリアに存在する同類製品産業集積地域の変容と、その地域の中小企業が取り組む経営革新と産業地域との関連についてフィールドワークにより比較考察を行う。この2つの研究を総合的に行うことで、特定地域 (トスカナ州、エミリア・ロマーニャ州) に偏りがちなイタリア産業地域研究とは異なり、相対的で客観的なイタリア国内地域間比較、および日伊比較研究が可能となる。

## 3. 研究の方法

本研究は、以下の年次進行でデータベース構築作業とフィールドワーク調査を並行して継続的に実施した。

### 1) 初年度

#### データベース

初年度となる本年度では、製造業センサスの全国、20州、103県の全事業所・従業者数に関する産業中分類レベルのデータ編集・加工および公開を進めた。

#### フィールドワーク

地域間比較のためのフィールド調査は、トリノにおける自動車デザイン・設計開発支援企業 (カロツェリア) とその関連集団について実施した。企業7社、I STATトリノ情報センター、イタリア自動車工業会においてインタビューを実施した。

### 2) 2年目

#### データベース

イタリア製造業センサス・データを基に、以下の事業所・雇用推移を編集しWEBにて公表する。

- ① 約200といわれる伊・産業地域 (Industrial Districts) のうち、特に代表的なもの、コモ、プラート、ピエツラ、オメーニャ、ブレッシャ、ベッルーノ、ミランドラ、サッスオーロについて編集・公表する。
- ② すでに集計を終えた産業中分類レベルの「3つのイタリア (北西部、北東・中部、南部・島部)」区分別の集計データを公表する。
- ③ 全国の県 (Provincia) レベルの産業中分類レベルについて集計・編集したものを公開する。

#### フィールドワーク

フィールド調査では、フリウリ・ヴェネツィア・ジュリア州ポルデノーネ県一帯に広がる家具産地の調査を実施した。ここから、ロンバルディア州ブリアンツァ地域とマルケ州ウルビーノ地域との3大家具産地の地域の特徴と市場性が浮き彫りにできた。

### 3) 3年目

#### データベース

製造業センサス産業中分類から、県レベルの2001年従業者数の多い順番にランキングを作成し、業種別雇用集中度を公開するなど、データ編集・加工作業を継続して行った。

#### フィールドワーク

フィールド調査では、昨年度に実施したポルデノーネ県一帯に広がる家具産地の調査との比較考察を念頭に、ロンバルディア州ブリアンツァ地域の調査を実施した。そこでは産業地域における製品・顧客ターゲットの差別化と、それに関連した生産組織の形成、後継者育成への取り組みなど、さまざまな面で異なることが明らかとなった。

## 4. 研究成果

本研究では、製造業センサスにもとづいて州・県・コムーネ単位における事業所数・従業者数の推移をデータベースにすることができた。これにより、たまたま見学した地域産業であっても、長期的な産業動向を裏付けて、その時点における客観的な位置づけを把握することができる。

また、産業別に注意深く見ていくと、それまで喧伝されていた地域が衰退していることや、これまで顧みられることのなかった南部の地域の発展可能性を示唆する事実発見も出てくる成果を得ることができた。

こうした成果にもとづいて、フィールド調査の候補を計画的に選定することができる上、また、これまで未知であった地域の調査検討に値する可能性が広がる。

他方、現地フィールドワークからは、イタリアに特殊に集積した自動車設計エンジニアリング会社・カロツェリアのトリノ産業集積について、伝統的な産業として家具産地であるミラノ北部とフリウリ＝ヴェネツィア・ジューリア州の地域間比較することができた。

トリノの産業集積は世界、とりわけ新興国とのつながりから受注機会を広げ、スタイリング部門ばかりでなく、エンジニアリング部門の強化を図っている。

家具産地間比較では、顧客層の差別化と大規模コントラクト・ビジネスの展開の有無など、地域によって戦略展開と地域企業の発展経路の創造に差異が生じていることが明らかとなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (15 件)

遠山恭司、日本とイタリアの産業集積比較研究-持続的発展のための経路破壊・経路創造-、三田学会雑誌第 101 巻第 4 号、pp. 125-149、2009、査読なし

遠山恭司、イタリア・トリノにおける自動車デザイン関連企業と産業集積 -伊自動車工業会・カロツェリア部会加盟企業を中心に-、中央大学経済研究所年報第 39 号、pp. 483-522、2008、査読なし

遠山恭司、イタリア・ベッルーノにおける眼鏡産業集積の構造と企業 -国内産業集積地との相対的視角から-、中央大学経済研究所年報第 38 号、pp. 239-268、2007、査読なし

遠山恭司、北イタリアにおける産業地域の構造とその変化-シルク産地コモと金属製品産地ルメツァーネの事例、日本中小企業学会論集第 26 集、pp. 203-207、2007、査読なし

本木弘悌、遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 20 イタリアの地域産業と南部、地理第 53 巻 2 号、古今書院、pp. 70-73、2008、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 18 家具のまち ポルデノーネ、地理第 52 巻 12 号、古今書院、pp. 74-75、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 16 医療機器のまち ミランドラ、地理第 52 巻 10 号、古今書院、pp. 72-73、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 14 自動車のまち トリノ、地理第 52 巻 7 号、古今書院、pp. 90-91、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 12 オートバイのまち ボローニャ、地理第 52 巻 6 号、古今書院、pp. 90-91、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 10 ヴァイオリンのまち クレモナ、地理第 52 巻 4 号、古今書院、pp. 98-99、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 8 眼鏡枠のまち ベッルーノ、地理第 52 巻 2 号、古今書院、pp. 68-69、2007、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 6 高級スポーツカーのまち モデナ、地理第 51 巻 12 号、古今書院、pp. 74-75、2006、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 4 古代ローマ円形闘技場で野外オペラ ヴェローナ、地理第 51 巻 10 号、古今書院、pp. 22-23、2006、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 3 最古の猟銃メーカーのまち ガルドーネ・ヴァル・トロンピア、地理第 51 巻 9 号、古今書院、pp. 82-83、2006、査読なし

遠山恭司、イタリア ものづくりの都市を訪ねて 1 金属製品のまち ルメツァーネ、地

理第 51 卷 6 号、古今書院、pp. 10-13、2006、  
査読なし

〔学会発表〕（計 5 件）

遠山恭司、イタリア地域産業・中小企業の持  
続的発展モデル、早稲田大学グローバル自動  
車部品研究会、2009

遠山恭司、日本とイタリアの産業集積比較研  
究-持続的発展のための経路破壊-、慶応義塾  
経済学会コンファレンス、静岡県・ホテルリ  
ゾーピア熱海、2008

遠山恭司、イタリア眼鏡産業集積・企業の動  
態と日本産地への示唆、第 379 回 S T E P  
研究会、機械振興協会経済研究所、2008

遠山恭司、イタリアの企業経営 ブランドと  
デザインの視点から、東京設計管理研究会、  
都立産業技術高専、2007

遠山恭司、日本とイタリアにおける眼鏡産業  
集積の比較研究、経済地理学会関東支部例会、  
駒澤大学、2007

〔図書〕（計 3 件）

上野和彦・政策科学研究所編、伝統産業産地の行  
方 伝統的工芸品の現在と未来、東京学芸大学出  
版会、2008、189 ページ

北村嘉行編、『中小工業の地理学』、三恵社、  
2008

渡辺幸男編、『日本と東アジアの産業集積研  
究』、同友館、2007

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://homepage2.nifty.com/censusitaly/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠山 恭司 (TOYAMA KYOJI)

研究者番号：20270233

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし